

研究 テーマ	一人一人が表現することの喜びを味わうことができるような学習過程の工夫 —小学校第1学年「クルクル、ぐるーり」の水彩絵の具の指導を通して—
-----------	---

牛久市立向台小学校 教諭 平川 明子

I 研究テーマについて

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領における図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」と示されている。児童にとって、自分の思いや願いを絵に表したり、形にしたりするという行動は根源的な欲求であるといえる。また、形や色、材料などを媒介にして、この欲求を満たしながら持てる力を主体的、創造的に働かせることは児童の心身の調和的な発達を促すことになる。さらに、この「つくりだす喜び」は、児童一人一人の「生きる力」となり、これからの社会において自分のよさや可能性を発揮しながら児童が主体的に生きることに繋がっていくものであると考える。

平成 27 年度の学校教育指導方針（茨城県教育委員会）の小学校図画工作の努力事項の中には「感じ取る力、自分なりのイメージをもつ力の育成」として、「児童一人一人が自分なりのイメージを基に、材料や用具を十分に用いながら、様々な表し方を工夫したり製作の手順を考えたりすることのできる学習活動の充実」を掲げている。このイメージする力を「確かな学力」ととらえ、それを持てる力として働かせ、思いを表現できるようにしていくことは、ねらいとする「生きる力」をはぐくむことになると考える。

低学年の児童は、水彩絵の具を用いる際に、複数の色を混ぜて自分の好きな色に変化していくことにも目を輝かせ、歓声をあげている。また、この用具との出会いの喜びを基に、かきたいものをかいたり、自分や友達の表しているものを眺めたりしながら、自分のイメージや思いを膨らませている。さらに、用具や技法に出会うときに躊躇せず、新しい表現方法を楽しんだり、試したりできるのもこの時期ならではである。

水彩絵の具は、クレヨン、パスとともに児童にとって大変に身近な用具である。具体的には中学年に扱われることも多い水彩絵の具の指導であるが、実際には、本校でも低学年から個々に保有し、各作品展等の絵画の着色に使われることもある。また、低学年では、あらかじめ用意され、塗りやすい濃さに薄められた水彩絵の具を共同で使用することも多く親しみやすい。しかし、あらかじめ用意された共同絵の具は、単なる着色の手段になりかねないこともある。

そこで、水彩絵の具等の第1学年での指導を水彩絵の具の入門期ととらえて扱い、それを技能として自分の表現に活かすことを実感できるような題材を組み合わせ、学習過程を工夫することで、児童一人一人が自分らしい発想をし、表現の喜びを味わうことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

図画工作科第1学年「クルクル、ぐるーり」の学習において、基礎から積み上げるような学習過程を工夫することで、一人一人が表現することの喜びを味わうことができるような指導の在り方を究明する。

3 研究の仮説

第1学年「クルクル、ぐるーり」の学習において、次のような指導の工夫をすれば、児童一人一人が表現する喜びを味わうことができるであろう。

- (1) 水彩絵の具の入門期における指導の充実とその工夫
- (2) 題材を通してステップアップする学習過程の工夫
- (3) 児童のイメージをふくらませる題材設定の工夫

4 仮説検証の方法

ア 児童の実態把握

- ・検証授業前後のアンケートによる児童の意識調査の比較

イ 児童の反応の記録

- ・表情、つぶやき
- ・作品
- ・取り組みの様子

ウ 児童の学習カードの分析

- ・児童の自己評価等
- ・感想

5 授業の構想

児童一人一人が表現することの喜びを味わうことができるような学習過程を工夫する。

ア 題材①「手でさわってかくのってきもちいい！」

(手のひらで感触を楽しみながら、水彩絵の具をのぼす学習)

イ 題材②「自分だけのまほうの色」(初めての水彩絵の具の用具の使い方の学習)

ウ 題材③「クルクル、ぐるーり」(筆で塗る心地よさを味わう学習)

エ 題材④「あさがおとあそぼう」(これまの学習を活かした学習)

II 研究の実際

1 題材名 「クルクル、ぐるーり」

2 題材の目標

絵の具の筆で線をかき快さを味わいながら、「クルクル、ぐるーり」を思いのままにかくことができる。

3 題材について

(1) 児童の実態（男子13名 女子18名 計31名）

児童の意識調査によると、ほとんどが図画工作の学習を「好き」と答えている。また、楽しいと感じるのは「好きな絵をかいているとき」と答えた児童が最も多かった。実際に本学級の児童は、時間を見つけては、ノートを広げ思い思いに絵を描いたり、着色したりと、絵をかく

質 問		好き	やや好き	やや苦手	苦手
1 図工は好きですか。		27	3	1	0
すきな活動	① 造形遊び	23	7	1	0
	② 絵	29	2	0	0
	③ 工作や粘土	25	4	2	0
2 自分がイメージしたように、絵をかいたり、ものをつくったりできるか。		<ul style="list-style-type: none"> ・十分にできる（12人） ・できる（6人） ・わからない（2人） ・あまりできない（10人） ・できない（1人） 			

[平成26年10月実施 実施人数31人]

ことそのものを楽しむ姿が多く見られる。アンケート結果にもあるように、低学年の児童にとって絵をかくことは、日常の一部であるといえる。しかし、一方では質問2のように、自分の思ったことを十分に表現できると答えた児童は、半数以下となり、理由としては、特に絵に表すときに、下絵には満足できるものの、色を塗る段階で思うようにいかなくなるとの回答が多かった。このことから、児童が自分の思いや願いをふくらませ、つくりたいものをつくりあげることができたときに楽しいと感じることができるといえる。そこで、児童一人一人が自分らしい発想をし、表現を楽しむことができるようにするために、一人一人に応じて発想を広げたり深めたりする指導や、思いの実現に近づけるような基礎的な技能を高める指導が必要であると考え。

(2) 題材観

本題材は、筆を使って「クルクル」線の表現の多様さに気付くための活動と、その作品から思いを膨らませ、サインペンやクレヨンなどで、かき加えていく活動の2つからなる。思いのままにかき、そこから想像の世界を広げながら、表現を楽しむ過程で、表したいことを思い付き、楽しみながら表現方法を工夫することのできる題材である。さらに、絵の具の塗り心地を楽しみながら、形や色、筆の使い方など水彩絵の具について学習していく初めての題材でもあり、自分の用具を使用する喜びや、水彩絵の具が生み出す様々な色の可能性に気付くことができ、期待感をもって取り組める題材であるといえる。

(3) 指導観

「クルクル」は幼児期の落書きを思い起こさせるもので、1年生にとっては抵抗のない表現である。これにより、かくことの快さや楽しさを経験させ、自信を持たせて

いきたい。例えば、導入では、題材のイメージをつかみ、興味をもつように「クルクル」や「ぐるーり」を手で空がきさせる。そして、大きさや太さの違う形を、教師が実際にかいてみせ、さまざまな形や色の「クルクル、ぐるーり」がかかることを伝えていく。また、身に付けた水彩絵の具の使い方やその特性を生かせるような声かけをしていくことにより、水彩絵の具を用いることが児童にとって自分の表現方法の一つとなっていくことを実感させたい。さらに、途中から児童が新たな表し方を見つけた際は、それを友達同士で紹介したり、その方法を教え合ったりすることで、他の児童と繋がりを持たせ、表現する喜びを味わわせていきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
思いのままに絵の具を筆でぬる快さを味わいながら、心を開いてかく活動を楽しもうとしている。	「クルクル、ぐるーり」を思いのままにかくことから想像を広げ、表したいものを思い付くことができる。	好きな色を選び、筆を動かす速さや強さによる筆触、色の違いなどを感じながらかくことができる。	それぞれの「クルクル、ぐるーり」やそれらからイメージを広げた表現の違いやよさに気付くことができる。

5 指導と評価の計画（4時間扱い）

※○印は時数

時間	学 習 内 容 ・ 活 動	評価規準【評価方法】
第1次 ①	筆を動かすスピードや筆圧による線の太さの違い、色を選択しながら、思いのままに「クルクル、ぐるーり」をかく。	<ul style="list-style-type: none"> 思いのままに絵の具を筆でぬる快さを味わいながら、心を開いてかく活動を楽しもうとしている。○【観察・態度】 好きな色を選び、手を動かす速さや強さによる筆触、色の違いなどを感じながらかく。○【観察・作品】
第2次 ②	かいた「クルクル、ぐるーり」からイメージしたものをかき加えて楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> 「クルクル、ぐるーり」を思いのままにかくことから想像を広げ、表したいものを思い付くことができる。○【観察・作品】
第3次 ①	自分や友だちの作品を見て、互いの表現のよさを味わう。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの「クルクル、ぐるーり」やそれらからイメージを広げた表現の違いやよさに気付くことができる。○【観察・ワークシート・発言】

6 指導の実際（4時間扱い）

過程	学習内容・活動	教師の支援と評価（関発創鑑）
<p>出会う</p>	<p>1 学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ぐるぐるめいじんになろう！</div> <p>「クルクル，ぐるーり」って手で空中にかいてみよう。</p> <p>2 自分が感じた「クルクル」「ぐるーり」を空中にかく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「クルクル」は小さいよ！ 「ぐるーり」は大きいね！</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材名から受けるイメージを話し合い，思い思いに表現できるようにしていく。 <p>教師の例示などで絵の具でかくことの楽しさを伝えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手や体を動かして「クルクル」のイメージをつかませる。 <p>園思いのままに絵の具を筆でぬる快さを味わいながら，心を開いてかく活動を楽しもうとしている。</p>
<p>ためす</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">いろいろな「クルクル，ぐるーり」を好きな色でかいてみよう。</div> <p>3 使いたい色を選び，画用紙にかきたい「クルクル，ぐるーり」をかく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>好きな色をくみあわせてみよう いろいろな色でかきたいな。 大きさをかえてみよう！</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆の持ち方や筆圧，動かす速さや色の違いによる表現の変化に気付かせる。 <p>園好きな色を選び，手を動かす速さや強さによる筆触，色の違いなどを感じながらかくことができる。</p>
<p>深める・広げる</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">かいた「グルグル」を見て，思い付いたものをかきたしてみよう。</div> <p>4 思い付いたもの，表したいものをかきたす。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>・ぐるぐるが〇〇に見えてきたよ！ ・グルグルの世界でかく れんぼができそうだ！</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな円から具象的なものを連想させたり，線から受ける印象や感情をもとにイメージを膨らませる。 <p>園「クルクル，ぐるーり」を思いのままにかくことから想像を広げ，表したいものを思い付くことができる。</p>

<p>お互いの作品を見ながら、自分や友だちの作品のよいところを見付けよう。</p>	
<p>5 自分や友だちの作品を見て、互いの表現のよさを味わう。</p> <p>・ぐるぐるの虹みたいだね。 ・くだものや太陽に変身したね。 ・ぐるぐるの世界で遊んでいるね。</p> <p>気付く・味わう</p>	<p>・お互いの作品を鑑賞し、作品の面白さやよさについて感想を交流する。</p> <p>鑑 それぞれの「クルクル、ぐるーり」やそれらからイメージを広げた表現の違いやよさに気付くことができる。</p>
	

III 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・段階を踏んだ学習過程にしたことで、初めて水彩絵の具を用いる児童が、抵抗なく水彩絵の具のよさや楽しさに触れることができた。
- ・水彩絵の具指導の時間を充実させたことで、他の題材においても、パレットや筆洗バケツの使い方、絵の具の混色等を表現したことに合わせて自在に用いる児童が多くなった。
- ・水彩絵の具を用いる学習過程（4つの題材）を予め児童に知らせておいたことにより、見通しをもって活動し、それぞれの過程で身に付けた技能を実感し、さらに次に活かそうとする意識が高まっていた。

(2) 課題

身に付けた力を発揮できるような場を設定していくとともに、グループ等の共同製作においても、個々の技能が活かされることで、さらに表現の楽しみが味わえるような題材を工夫していきたい。

[参考文献]

- ・小学校学習指導要領解説 図画工作編 平成20年8月 文部科学省
- ・学習指導 図画工作書実践事例編, 用具材料編 開隆堂出版
- ・図画工作題材集 絵画分野 日本造形教育研究会編 開隆堂出版